

## 南 美智子さん 事例全体像

○2007年4月、予定より2週間早く出生、<sup>かんしぶんべん</sup>鉗子分娩、生下時2,100g、保育器3日間、定額7か月、初歩1歳5か月、発語2歳1か月。

乳幼児健診で発育の遅れ、言葉の遅れ等指摘を受け、保健センターのグループ指導を利用。保育所には一般枠で通所するが、集団の動きについていけない、内容によって言葉でのやりとりが難しい面が見られた。

○小学校は地域の学校に通い、支援学級を利用、勉強は遅れ気味であったが、音楽や体育は楽しく前向きに受けていた。友達は決まった数人とおしゃべりすることが多く、孤立する場面は見られなかった。学級会など物事の取り決めを行う場では、自身の思いを話すことができなかった。3年生の時に教室で脱力発作を起こし、医療機関に受診、抗てんかん薬処方となり、毎朝食後服薬、3か月に1回S病院に通院し処方を受けている。その後、発作は見られていない。

受診には母が連れて行っていたが、一度だけ母の都合がつかず、姉が行っている。病院はこわいという感情があるようで、行き渋りを見せる。買い物などの楽しみがあると頑張れる。

音楽や体育の時間が楽しみで、他の授業では、まわりについていきにくかった。3年生の時、母と一緒にUSJに行ったことが一番の思い出と本人は言う。

○学校での様子は、音楽がとても好きで、校内の演奏会で太鼓を担当、練習に熱心に取り組み、発表会でいっぱいの手拍をもらい、とても喜ぶ。歌を歌ったり、CDで音楽を聴いたりすることも好きで、音楽の話から友達関係も広がってきている。友達との会話やりとりは、TV番組のこと、特にEXILEの話などをよくし、生活全般においては簡単な指示は要るが、すみやかに行動に移すのは難しい状態。すみやかにうごかない、指示はクラスの友達がしてる。

平仮名は読めるが、漢字は簡単なものしか読めないし、書けない。足し算は一桁であればできるが、「1,000円で200円のお菓子を買うとお釣りは？」と問われれば、答えることができない。

食事や排泄は自立しているが、調理や洗濯、掃除、金銭管理などのIADL面は母が手厚く世話をしていて、経験不足なゆえ、ほとんどできない。

○両親は、姉や兄同様、本人のことをよく可愛がっていたが、本人が5歳時に父が職場での事故で死去、以降、母が仕事をしつつ、子育てしてきている。母には兄が一人いるが遠方であり、支援は期待できない。

母は、地域の民生委員や(知的)障がい者相談員と懇意にしており、本人のことで幼少期の頃から何かと相談に乗ってもらっていた。小学校の支援学級利用や小学校入学前の療育手帳取得などに関わる相談だけでなく、本人の育て方についての相談や地域の行事への参加を手助けしてもらったり、とてもお世話になってきている。民生委員や(知的)障がい者相談員の方も本人を可愛がり、現在も良い関係が続いている。

- 姉と兄は、年齢が離れていることもあり、本人のことをよく可愛がり、また仕事に忙しい母にかわって、よく面倒をみてくれてきた。兄は、身辺面などがきっちりできない本人に厳しめに諭すことが多かったが、姉の方は本人をよく理解し、本人が小学校2年時に結婚して家を出たが、しょっちゅう家に来ては何かとやさしく接してくれた。本人も姉のことが大好きである。
- 母はスーパーマーケットでパートとして毎日10時から16時頃まで働き、帰宅後本人を迎え、家事をこなしてきている。
- 母は、2012年に父が亡くなってから、現在勤めているスーパーマーケットでパート就労を始めるが、本人が保育所に通所しており、その送迎もあり、また高校生の姉、小学生の兄の教育などもあって、一所懸命な日々であった。本人の発達の遅れについては、保健センターの保健師や保育所の保育士などから聞いており、接し方に悩むことが多く、近隣の（知的）障がい者相談員や民生委員によく相談を持ちかけて、助言をもらっていた。ADL面で、母は疲れもあり、どうしても『世話をする』接し方になりがちであった。本人が小学校に行きだした頃に、姉は高校を卒業し就労しはじめすぐに結婚し家を出ることになったが、家によく来てくれ母に代わって本人の相手をして一緒に音楽の話をしたり、近くのコンビニなどに買物に出かけたりしてくれていた。
- 出かけたいけど、家族それぞれ忙しく、月1回のお出かけを楽しみにはしている。でも、もっと遊びたいと、よく言っている。
- 本人のADLやIADL面は、母や姉がどうしても手をかけてしまい、現在でも、入浴時の細かな洗身や整容面など、そして掃除や洗濯、調理においてはほとんど自分ですることがなく、服薬についても母が設定し、飲むのをチェックしている状況であった。買物は母に500円をもらっては、一人で近くのコンビニでお菓子などを買い、レジでもらったお釣りとレシートを帰って母に渡す、というやり方が定着していた。夜遅くまでCDをたくさん聞いて踊っていることがときどきある。それも朝起きれない。
- 母は最近、健康面での不安があり、これからの生活に対しても不安が増すようになってきた。民生委員や（知的）障がい者相談員にも相談し、福祉サービスの利用も検討するよう助言されている。
- Z障がい者相談支援事業所の相談支援専門員と面談し、これからの生活について一緒に考えていくこととなり、近所にある放課後等デイサービスの体験・見学をおこなう。
- 放課後等デイサービスの説明をうけ、児童発達支援管理責任者と面談し、本人の状況を説明する中で将来に対する不安も伝える。